



五両が千両になる天秤棒

近江商人余話1

- ◇五個荘の近江商人・高田善右衛門は十七歳のとき、父からもらった五両の金をどう生かすかを考え、美濃の国で煙草入れを仕入れて、それを紀州への道すがら売り歩きました。
- ◇行商先の紀州はロウソクの産地でした。そこで煙草入れを売った金で近江八幡のトウシン(燈芯)を仕入れて持ち込むと、飛ぶように売れました。
- ◇紀州有田は茶の産地でもあります。茶摘みには笠が必要だと気づくと、近江の皮笠を仕入れて売り込み、これも大成功をおさめました。
- ◇これらの行商で大活躍したのが天秤棒。雨の日も風の日も天秤棒を肩に荷を運び、五両の金が千両にもなったといわれます。
- ◇この商法は「持ち下り(もちくだり)商い」と呼ばれ、善右衛門をはじめ時の近江商人は、絶対に天秤棒を離なそうとはしませんでした。どこで何が必要とされているか、どこで何が余っているかという情報は、自分の足で歩いてこそ分かるからです。苦勞して財をなしたあとも、近江商人は「持ち下り商い」の行商を、決して止めることはありませんでした。



消えた故郷、消えぬ思い出

室岡 好子(余呉出身)

私の生まれ故郷、伊香郡余呉町(現在は長浜市)中河内小字半明は、今は何もありません。平成七年に丹生ダムが建設されるといふことで、十五軒ほどの集落に暮らしていた半明の人たちは彦根などへ出ていき、そこにあった家や神社、お墓などはみな壊され、ただ草が生えているだけの大地となりました。十二年くらい前、一度だけ夫とともに半明を訪れましたところ、こんなところに家があったのかなァ、と考えてしまいうくらい、本当に何もかも郷里の面影はなくなっていて、悲しみにくれたのを覚えています。

三島へ来て四十年を迎えようとしています。が、「しゃくなげ会」の皆様と出会い、故郷滋賀県を思い出すことも多くなりました。中でも八月十六日を迎えると、中河内の太鼓祭りを思いだします。子どもの頃、唯一の楽しみだった太鼓祭りとは、鈴と数えきれない程の色とりどりの短冊をつけた一本の大きな竹を背負い、太鼓を抱えて叩く太鼓打ち二人と、鉦うち二人、笛吹き二人、等が勇壮に村中を練り歩く祭りです。踊りが奉納される神社までの二キロの道のりを、毎年母に手をひかれ家族みんなで出かけたものです。神社の境内では、村に住む人、お盆で帰省している人など、村中みんなで江州音頭を夜通し踊りました。本当に楽しかったものです。

三島の街の方からシャギリや農兵節が微かに耳にとどく夏になりました。八月十六日は、夫を天国へと送ったこと、そして中河内の太鼓祭りを思い出す夏の日です。



私と「ソフトボール」

東郷武男（近江八幡出身）



私の少年期は太平洋戦争の戦中・戦後の物のない時で、スポーツと言えば野球という時代であった。ビー玉を芯にして毛糸をぐるぐるに固く巻き、表面を布で縫い付けたボール、適当な棒きれを荒削りしたバット、と全て手作りの用具で近所の友達を誘い、近くのお寺の境内で三角ベースで興じたのが始まりである。その後ボールが軟式のテニスボール・公式ボールに変わり、母の帯芯でつくった手製のミット・グローブと進化していったが、バットはそのままであった。成長するに伴い、用具も本式のものとなり軟式野球に移行することになる。町内会の少年野球、会社での職場チームで野球に親しむようになる。昭和三十年頃、会社（東レ）での昼食後の休憩時間に手軽にできるスポーツとして、野球を小形にしたソフトボールを知り、昼食もそこそこにグラウンドに飛び出しソフトボール試合に興じた。職場の上司がソフトボール好きで、職場チームを作り他の職場チームと対抗試合も行った。

2

昭和三十五年三島に転勤しソフトボール熱は更に上昇、「課内対抗試合」「各課対抗試合」各工場の代表チームが集まる「全東レソフトボール大会」に出場した。こうなっていると会社内の試合だけでなく、静岡新聞社主催の「第一回父親ソフトボール大会」に三島北小学校区PTAチーム（PK会）として参加し、三島地区予選決勝戦で西小学校区チームに勝ち県大会に出場した（一番打者で三塁手）。県大会では残念ながら一回戦負けであった。この時ソフトボールの奥の深さ、レベルの違いを痛感した。その後クラブチーム、町内会チームをつくり「三島市ソフトボール協会」に加盟、本格的なソフトボール人生が始まる。ソフトボールルールを勉強し、審判員の資格（3種・2種・1種公認審判員）を取得。また「三島市ソフトボール協会」「静岡県ソフトボール協会」との接触も増え、三島市ソフトボール協会のスタッフに参画して常任理事、審判委員長、理事長を歴任。静岡県ソフトボール協会では理事、審判認定委員、監事を歴任し、現在三島市ソフトボール協会副会長を務めている。

この間、印象に残るのは平成一〇年（一九九八年）七月二〇～三〇日、富士宮市で開催された「第九回世界女子ソフトボール大会」に公式スタッフとして参加し、降雨後のグラウンド整備を観客と一緒にいった、真夜中の日本対米国の優勝戦であった。

東レ(株)を定年退職後関係会社に出向し、平成十年に退職して時間に余裕ができたので、審判に積極的に出場するようになる。ソフトボールはシーズンオフがなく、毎年一月三、四、五日に開催される高校女子の「栄光杯ソフトボール大会（全国から三十校ほどの参加あり）」を筆頭に、高校男子・女子、中学女子、小学生男子・女子、社会人男子・女子と幅広く多くの練習試合、公式戦が開催されている。また静岡県東部には富士宮市に「県営ソフトボール場」、伊豆の国市に全日本女子チームのフランチャイズとなっている「天城ドーム球場」があり全国規模の大会が多い。くわえて三島協会加盟チームの公式試合もあり、日曜日に家にいることがない。特に学校の夏休み期間は高校チームの合宿が多く、日曜日に限らず練習試合をやるので審判の依頼が多く、朝早くからカンカン照りのグラウンドで大きな声を出し動きまわって、審判も結構走る。

公式試合では審判は球審、塁審（1、2、3塁）、副審の五名で一試合を担当する。球審は体を保護するプロテクター、レガース、マスクを装着し、ボールバッグを腰につけて、

投球、打球の判定と触塁を見る。投手が投球するたびに膝を折り、目を打者の高めに合わせるのが基本である（いわゆるスクワットの形）。投球判定以外はマスクはとる。塁審は打球の判定と走者の触塁、走路と野手を見る。副審はネット裏で、ルールどおり試合が進行されているか見守る。練習試合は球審と塁審一名、または塁審二名で行う時もある。試合は七回で約一・五〜二時間かかるが、この間グラウンドに立ちっぱなしになる。七回で同点の時は、無死走者2塁から始めるタイブレーカーというソフトボール特有のルールがある。審判は一日二試合が限度で、試合数が多い時は多数の審判員が必要になるので、富士、富士宮、御殿場、裾野、天城など、あちこちにでかけることになる。

今年の夏は特に暑く初めから汗びっしょりで、五回くらいになると頭がボートンとなってくる。この炎暑にうち勝つには普段からの節制が大切で、私は毎日のウォーキングと前日の夜更かし厳禁、睡眠を充分にとり、給水を多めにとって乗り切っている。

今日まで多くの試合の審判をやってきたが、納得いく試合は数少なく、いつも反省ばかりであるが、この反省こそが長く審判をやっている原動力かもしれない。これからも体の続く限り、走れなくなるまでソフトボールと審判にかかわってゆきたいと思っている。

老年暴走族だより



〔V 変更〕

平田 文一（近江八幡出身）

前回述べた様に、行きたかった岩手平泉の中尊寺への旅行を、5月に3泊4日の日程で計画し宿泊の予約までしたのですが、毎回妹夫婦と4人で行動しているのですが、義弟が体調を崩し急遽中止する事になりました。予約したホテル等はキャンセルしました。5月末に検査入院し調査の結果、手術等の治療しなくて良く、3ヶ月毎の検査で様子を見る事になり、偶々6月3日に高校時代のクラス会が開催されるので、出席を兼ねて義弟の様子を見に行く事にしました。

クラス会は野洲駅北の「橋梅楼」で行われ、55年ぶりに参加者と逢って楽しいひと時を過ごす事が出来ました。クラス50人中参加者17名で、亡くなっている同級生が9名でした。新任早々の担任の先生も出席されていて、80歳になられるそうです。

その夜は京都に泊り、義弟も体調は問題無いと言うので、翌日鳥取方面に1泊2日の予定でドライブ旅行をしました。朝6時に京都を出て、名神高速、中国自動車道、米子自動車道を走って境港に10時半頃到着し、今、朝のテレビで放送している「ゲゲゲの女房」で有名な水木しげるロードを、90分位かけて散策しました。このロードは平成5年に来た様で、今年のゴールデンウィークの時は、大勢の人たちが訪れたとの事でした。思いおこせば、昨年9月に谷川岳や吹割の滝などにドライブ旅行した帰りに、川越の街中を散策しましたが、やはりNHKのテレビ小説で話題になっていた所であり、2年続けて関連のある都市に行った事になります。

境港を後にして、日本海沿いの国道9号線を、途中景色の良い場所や道の駅などを見学しながら、東郷湖の畔にある町営の「水明荘」に午後4時過ぎに到着しました。宿泊料も安く料理も食べきれない程で満足出来るお宿でした。翌朝は、食事前に湖のほとりを散策し朝食後ホテルを出て今回の目的の一つである鳥取砂丘に向かいました。出来ればラクダに乗って砂丘を歩きたいと思っていたのですが、口蹄疫の影響でラクダは隔離されていたので、仕方なく馬は大丈夫だとの事で馬車に乗っての散策になりました。

帰りは、時間に余裕があったのでそのまま9号線を走り京都に向かい、福知山、亀岡などを經由してのんびりとドライブし、京都には午後5時頃到着しました。途中、出石のソバが食べたくなつたのですが、時間的、距離的に無理なので諦め、次回の楽しみに残しておきます。

翌日は、例によって朝京都を出て近江八幡に両親の墓参に行き、帰りは「和た与」に立ち寄り「でっち羊羹」や「ういろ」を買って妹夫婦とは近江八幡駅でわかれ、一路沼津に向かいました。帰りは、八日市ICから清水ICまで高速道路を走り、日曜日だったので1000円の交通費で済みました。走行距離は1600キロでした。

他に、4月に3泊4日の日程で、平城遷都1300年祭の奈良に出掛けました。混んでいそうな平城宮跡会場は避けて、石上神宮をはじめ大神神社や箸墓古墳、檀原神宮、室生寺、談山神社などを見て回り、明日香村は2日がかりで見ました。一日目は自転車で見回り、2日目は車で回りました、最後の日は朝早く吉野山に向い、車が通行止めになる前に吉野千本口から中千本、上千本、奥千本を、途中停まって桜を見たりしながら走りぬけ、なかなか爽快なドライブでした。午後は、国道25号線を走り、東名阪、伊勢湾岸道路などを走り、沼津には午後4時頃着く事が出来ました。男3人の旅でしたが、楽しい4日間でした。

(次号へ続きます)



思い出す事

久田 二郎 (永源寺出身)

昭和十七年七月十日、私に赤紙(召集令)が来た。B5位の用紙だった。「臨時召集令状」とあり、私の名前が書かれ、「右召集ヲ令セラル」とある。主語の無い不思議な文章である。「号した」のは天皇だろう。発行者は「大津聯隊區司令部」で、物々しく大きな判が押してあったのを覚えている。集場所は京都伏見の「工兵第十六聯隊」。

十五日が集合日だが、その前日に京都に来た。母と妹が送ってきた。丁度、祇園祭り、旅館の窓すれすれにダシが通った。その賑わいは、明日は軍隊へ入る私には余り気分の良いものではなかった。

軍隊へ入ってみると、応召の仲間は全て滋賀県人である。何か心が安まった。幾日か経った頃、任期を終えて(満期)軍隊を出る古い兵隊が「お前達が元気で軍務に励んでいる事を家族に伝えてやる」と言って所番地を聞き取った。それは、言う通りの親切心ではない。厳しい軍隊へ入った我が子を心配する親は、その実情を伝えてくれる人に感謝して、何かと歓待するだろう。それが狙いなのだ。

終戦で復員して聞いた話では、母の実家へ来た人は豊郷町の人で、たらふく食べて帰ったという。



近江の名句・名歌 ⑤

たっぷりと真水を抱きてしづもれる昏くらき器を近江と言へり 河野裕子

この「しゃくなげ会報」の発刊号に近江富士とムカデの話が載った。更に巻末にあった富士山の地に居する一人として、富士を思いつくまに綴ってみた。

色々あった静岡富士山空港、開港後も・・・

富士山ナンバーの車が走っている・・・

富士には月見草がよく似合う・・・

霊峰富士を早く世界遺産に・・・

昭和四二年夏、滋賀から友人とオートバイで富士スバルラインを上り五合目へ、「残り千メートルちょっとだけど(当時若いこともあり、平地の千メートルは一時間程度で登っていた)どうしようか?」。時間は午後一時過ぎ、返事を待つまでもなく、二人は頂上を目指して歩き出していた―と、ここまではよかったが。九合目の山小屋に辿りつくのがやつとのことで、三千メートル級の山の怖さを痛感した。でも、翌朝のご来迎の素晴らしさに感激し、夕刻無事近江へもどった。(その時の雲海に映る影富士―右下の写真)

これより十年近く前の中学の頃、近江富士こと三上山(下写真)登山を試みている。奇麗な石を集めることが流行っていて、三上山から水晶が採れるとの情報から、三上水晶探検隊とか称して仲間と自転車で安土―野洲間を何往復かしている。マムシや大ムカデにビクつきながら、目的が達成できたか定かでない。その後水晶については、湖南アルプスの田上山でトパーズ(黄玉)を含め何個か見つけている。

「富士山上の約四ミリの厚み」これってなあーんだ! クイズではありません。小生の仕事に関する事で、ステンレス鋼が錆ない理由(不動態皮膜という)の説明に使っています。即ち、非常に薄い皮膜が錆を防いでいて、台所の流しの二ミリのステンレス板を富士山に譬えたときの皮膜の厚みを表しています。(下写真) 今度はクイズです。(正解しても、賞品はありません)

近江富士のように、富士のつく山は全国に幾つあるでしょうか? 富士山は、幾つの都道府県から見ることができるとでしょうか?

富士駅、新富士駅など富士のつく駅は幾つあるでしょうか?

以前テレビの「クイズダービー」で取り上げられたこともあったかと思えます。下の写真は朝霧の讃岐富士(飯野山)

次の春先の富士山の写真 二人の女性わかりますか?

(富士の写真集に なりました)



おめでとうございます

当会（遠州支部）花柳寿絵美鳳さんの、師籍五十五周年記念公演・第二十六回「絵美の会」が、去る八月二十九日（日）浜松市教育文化会館に於いて華やかに開催されました。当日は浜松市・同教育委員会等の後援の下、日本舞踊界の鬼才・花柳基氏（芸術選奨文部科学大臣賞受賞）の特別出演などもあり、寿絵美鳳さんの輝かしい足跡にふさわしい大盛会となりました。会員一同、心からお祝い申しあげます。

滋賀の味⑤ 「赤かぶら漬」



冷たい北風が吹き始める十一月下旬、湖東地方一帯では古くから農家に伝わる「赤かぶら干し」の光景が見られます。

米ぬかと塩がもしたず、なつかしい本物の漬物です。

軽く水洗いしてぬかを取り除き、根かぶは筋目に沿って五ミリ程度の厚さに切ります。葉は細かく刻んで添えます。

創業百七十年余、愛知川（愛知郡愛荘町）のマルマタなどが販売しています。

いちどは行きたい滋賀県の文化施設 3

安土城考古博物館



安土城と織田信長に関する史料のほか、弥生時代から古墳時代にかけての考古学資料や生活様式を再現した、豊富な展示物を見ることができます。

周辺には安土城址、大中の湖南遺跡、その他たくさんさんの史跡があります。

☆滋賀県近江八幡市安土町下豊浦六六七八

☆JR琵琶湖線「安土」下車・徒歩二五分

☆名神高速道・竜王ICより二〇分

☆お問い合わせ 0748-46-2424 月曜休館 料金四〇〇円

二〇一〇・三・一四「しゃくなげ会」例会結果報告



（会場）三島市民文化会館 （出席）二四名 （時間）一二・三〇～一四・三〇

（収入）会費 四八〇〇〇円 雑収 二〇〇〇円

（支出）昼食 二五〇〇〇円 会場費 六〇四〇円 通信・会報費 二四〇〇円

お土産 一一二七〇円 （五二九〇円は緑越）

この会報を長く続けたいと思います。原稿は左記へお寄せください。会報をお望みの方は返信用封筒を同封し、左記へお申越しください。

（発行所）〒410-0874 沼津市松長九二一-六一〇〇三 三上八郎